



JSQC ニュース

No.235

発行 社団法人 日本品質管理学会
 東京都杉並区高円寺南1-2-1 (財)日本科学技術連盟東高円寺ビル内
 電話:03(5378)1506 FAX:03(5378)1507
 ホームページ:www.jsqc.org/

CONTENTS

- 1-トピックス「品質管理推進功労賞」
- 2-私の提言「学会誌の役割」
- 2-ルポタージュ 第273回関西事業所見学会ルポ
- 3-ルポタージュ 第277回本部事業所見学会ルポ / 1月・2月入会者紹介 / 文部科学省教員公募
- 4-第18回FMES・研連シンポジウム / 行事案内

学会員の皆様に候補者の推薦をお願いします！ 品質管理推進功労賞

選考委員会 委員長 狩野 紀昭

(社)日本品質管理学会品質管理推進功労賞は、品質管理推進に尽力されている多くの方々に活力を与え、品質管理の発展がより加速され、ひいては産業界の発展に寄与できることを願って創設され、本学会創立30周年を迎える記念行事のひとつとして昨年度に第一回授賞が行われました。本年度は、第2回ということで次の要領で実施致しますので、奮ってご推薦の程お願いします。なお、本賞に要する費用は、30周年記念事業の1つとして経済団体連合会(経団連)からの賛同を得て行った経団連傘下の団体・企業からの寄付金ならびに本学会賛助会員会社からの特別会費ならびに名誉会員・正会員からの寄付金によって賄われます。あらためて、これらの特別会費、寄付にご協力頂きました経団連・企業・会員の皆様に感謝の意を表します。

さて、本年度は、本賞の権威を高めるとともに、学会員の皆様に関心を深めて頂くことをねらって、広く学会員の皆様に推薦をお願いすることに致しましたので、是非、本賞に相応しい方をご推薦下さい。但し、推薦にあたっては次の点にご配慮ください。

- 1)本賞選考の事務工数軽減のため、推薦は全てメールにてお願いします。
- 2)推薦に際しては、予め被推薦者の了解を得て、被推薦者本人の確認を受けた書類を送付してください。

記

A. 本賞の授賞資格(品質管理推進功労賞内規):

- 1)企業・各種団体(以下、組織という。)に所属し、所属組織の品質管理の実践と推進に多大な貢献をした、もしくは、していると認められる者
- 2)組織に所属し、本会に対する多大な貢献があった、もしくはある者
- 3)組織に所属し、品質管理に対する造詣が深い者
- 4)本会の役員2名以上の推薦があった者

B. 本年度選考方針(過渡的段階であることを配慮):

- 1)本年度は、既に本来の所属企業を退職している人も対象として含めるものとし、表彰対象者数は、約10名程度とする。
- 2)本賞対象者の推薦に際しては、55~65歳位を目安とし、70歳以上ならびに50歳以下は避けるものとする。
- 3)本来の所属企業で取締役になった人は避ける(理事、執行役員は対象とする)。但し、子会社等へ出向し役員になった方は候補者に含めて差し支えないものとする。
- 4)31期の理事は、今年度の推薦対象者から外す。

C. 推薦必要書類:
推薦書(様式219-1)、業績リスト

(様式219-2) 上司等の推薦書(様式219-3、ここで上司等とは、元・上司、現・関連部門長を含むものとする)

様式については、URLhttp://www.jsqc.org/ja/kiroku_houkoku/jushou.html 参照

D. 推薦締切:
2002年5月31日(金)

E. メール送付先:
kourou@jsqc.org

F. 選考:
本学会理事ならびに代議員で構成される(社)日本品質管理学会品質管理推進功労賞選考委員会が行う。

G. 発表:
9月に開催される本学会理事会での承認後本人ならびに推薦者に通知

H. 表彰:
2002年10月26日(土) 本学会年次大会

I. 連絡先:
(社)日本品質管理学会事務局

J. 参考:
昨年度の第一回授賞者については、URLhttp://www.jsqc.org/ja/kiroku_houkoku/jushou/kouroushou.html をご覧下さい。

私の提言

学会誌の特集の役割

早稲田大学 理工学部 経営システム工学科 教授 永田 靖



昨秋より『品質』誌の特集担当の編集委員長をさせていただいています。

特集の編集は、ホットで役に立つ話題を学

会員の皆様に提供する重要な仕事です。しかし、そのような話題の提供だけでなく、他の商業誌の企画と変わりはありません。学会誌の特集である以上、学術的な議論と正当な研究成果が含まれている必要があると思います。

例えば、TQMとは異なる世界から現れた手法や活動が注目されていると

しましょう。企業の方々の中には、「それらと従来のTQMとの違いの議論などよりも、それらが役に立っているという事例と、推進方法に興味がある」と言われる方がおられます。正直なご意見だと思います。しかし、学会誌としては、「それらとTQMの違い」「それらがなぜ流行っているのか」「どのような場合にどちらに利点があるのか」などを議論しておかなければならないと思います。うまくいった事例があれば、うまくいったという過程だけでなく、なぜうまくいったのかという考察がほしいと思います。そこに理論が構築され、普遍化されると思います。

よい手法・よい活動は自然に定着して形を残します。一方、ある時期に、

有名な人が提唱したから、有力企業が用いたから、という理由で流行して、しばらくしたら跡形もなくなってしまうものもあります。後者のようなものはかなりの数があるのではないかと思います。こういう繰返しを見過ごすことは様々なロスにつながると思います。後になって結果がわかってから評価するのではなくて、現在現れているものの本質を評価する力をつけるためには、冷静な目でみた研究が必要です。それが商業誌ではできない学会誌の特集の役割だと思います。

学会とか研究という難しい言葉がでてきていかにもとっつきにくいと感じる方が多いかもしれません。しかし、大切なこと、本質的なことこそ、やさしい言葉で語られるべきだし、そうできるはずだと思います。

正当な研究に基づく内容をやさしい言葉で伝えることを心がけたいと思います。

第273回関西
事業所見学会
ルポサッポロビール(株)大阪工場
- 品質への取り組み -

2001年9月5日(火)に第273回事業所見学会(関西支部)が大阪府茨木市にあるサッポロビール株式会社大阪工場で「品質への取り組み」をテーマに22名の方々が参加して行われた。

1961年に操業を開始した同工場では、全社方針を受け、QCサークル活動、TQM、HACCP、ISO9000、ISO14001など、時代の変化に応じて様々な取り組みを続けている。現在は、「4000グループ活動」と銘打って、1.品質向上活動、2.コスト関連活動、3.環境関連活動、4.安全衛生活動といった“顧客価値向上”をより強く意識して活動している。

工場見学では、「仕込み」「発酵」「出荷」と、ビールの製造工程の説明を受け、前田工場長様から企業と

しての活動指針である「Be Exciting!」、品質の3本柱である1.原材料、2.製造工程システム、3.輸送のそれぞれの段階において、酸素を0.1ppm以下に押さえ込む“抗酸化工程システム”などの紹介があった。独自の“フレッシュキープ製法”に代表されるように、ビールはできたてが最も美味しく、時間とともに味は劣化することが科学的にも証明されている。それゆえ、出荷から輸送の段階で“製造時の状態を保持しながら、いかに早くお客様の元へ製品を届けるか”ということがビールメーカーの最大の課題であるといえる。

引き続き、製造部の高島部長様からサッポロチャートシステム、「市場香味耐久性向上への取り組み」事例の紹介、質疑応答が行われた。試飲会では「美味しいビールの注ぎ方と飲み方」を実体験とプロの実演により存分に堪能させていただいた。見学会を終え、ビールがさらに身近なものになったと実感できた。ご対応いただいた大阪工場の方々に感謝申し上げたい。

松井直樹(日本科学技術連盟)

第277回 事業所見学会 ルポ

川崎製鐵(株)千葉製鉄所 - 循環型社会を目指す最新資源 リサイクルプラント -

277回の事業所見学会は「循環型社会を目指す最新資源リサイクルプラント」をテーマに2002年2月8日(金)川崎製鐵(株)千葉製鉄所内に建設された「川鉄サーモセレクト方式・千葉プラント」を33名の方々が参加して開催された。

まず見学センターにて概要説明のビデオ放送と同社環境事業部日下部太郎氏からサーモセレクト方式の特長として①ゴミを燃やさずガス化溶融するためダイオキシンを含む有害物質をほとんどゼロにおさえる。②ゴミを100%再資源化する。③ゴミの持つエネルギーはクリーンガスとして回収し発電などに利用できる等の説明を受けた。

資源リサイクルプラントは従来のゴミ処理施設の外観とは大きく違い、縦100m、横55m、高さ23mで煙突も無く、壁面に大規模な太陽光発電システムが取り

つけられており、プラント内の圧縮、乾燥、ガス化溶融、スラグ・メタル化の各工程の設備も小規模な化学工場のようなものであるが日量300tのゴミ処理能力を持ち産業廃棄物も処理している。

同方式は小規模、省スペース、低コストでの稼働が可能な事から現在ドイツ南西部のカールスルーエ市では発電時に得られた温水を地域の冷暖房熱源として各家庭に供給しており、日本でもゴミ処理場新設、ダイオキシンの発生、飛灰、ゴミ埋立処分地に悩む地方自治体・企業からも注目が集まっている。

プラント見学後の質疑応答では処理能力、建設コスト、他の処理方式との相違点、製鉄技術を活用した新規事業展開等に関する討議が行われた。

現在日本ほどゴミを燃やしている国は無く、世界のゴミ焼却施設の7割が日本にあるといわれているが、今回の見学は今後の循環型社会への対応が学べた大変有意義な見学会であった。最後に今回の事業所見学を快くお引き受けいただいた川崎製鐵(株)の方々に参加者を代表して感謝申し上げる。

中泉 純(日本規格協会)

2002年1月・2月の 入会者紹介

2002年1月資格審査、2月理事会において、下記の通り正会員28名準会員18名賛助会員1社1口の入会が承認されました。

(正会員28名) 奥 武憲(リコー)
森永 久雄(シャープ) 形川 勉
(形川技研) 福本 麻理(金子工業)
吉田 敬史(三菱電機) 杉浦 正
男・榊原 俊二(アイシン精機) 伊藤
邦夫(日本大学) 西尾 憲幸(協豊製
作所) 牛嶋 大(東京理科大学) 武
藤 文二(武藤コンサルタント事務所)
桑野 勝喜(ゼンリン) 勝呂 隆
男(ティーエスシーコンサルティング)
小野寺 将人・北崎 洋司(日本科
学技術連盟) 渡辺 俊成(クラモト
ハイテック) 大口 卓男(品質コン
サルタント) 浅野 紀夫(テクノソフ
ト) 辻 謙作(SGS ICS JAPAN)
森出 誠祐(日産車体) 堀 秀孝
(五大開発) 倉田 樹(日本規格協
会) 片桐 直哉(情報機構) 海瀬

弘司(マネジメントシステムCI研究所)
山中 啓史(京三電機) 佐々木
康志(NTTデータ) 市川 周作(アイ
ホン) 山崎 秀夫(野村総合研究所)

(準会員18名) 古屋 厚(中央大学)
乙黒 聡子・藤田 泰・山畑 昌洋
(山梨大学) 酒井 拓・香川 仁・中
村 雄二・堀野 武志・馬場 博敬・
辻 宣行・富田 和道・青木 茂・宇
津原 純・富井 一美・村田 聡史・
伊藤 均・福田 俊泰・土屋 崇(東
京理科大学)

(賛助会員1社1口) 三菱自動車エ
ンジニアリング(大石 秀夫)

正会員:3066名
準会員:90名
賛助会員:185社209口
公共会員:21口

第19年度会長 根本 正夫氏 ご逝去
当学会、19年度会長の根本正夫氏は、
去る3月9日午前11時45分、悪性リンパ腫
のためご逝去されました。享年82歳。ここに
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

教員募集

文部科学省 統計数理研究所教員 公募

公募人員:A.文部科学教員 教授2名
B.文部科学教員 助手1名

所 属:予測制御研究系

研究分野:統計科学

応募資格:

- A. 次のいずれかに該当する者
1. 博士の学位を有する者又は研究上の業績がこれに準ずる者
 2. 研究機関又は大学において教授の経歴のある者
 3. 研究機関・大学において助教授の経歴があり、研究教育上の業績があると認められる者
 4. 研究所・試験所・調査所等、10年以上在職し、研究上の業績があると認められる者
- B. 修士の学位を有する者、又は同等以上の業績

応募期限:2002年5月10日(金)必着

採用予定:2002年7月1日以降

問合せ先:管理部庶務課人事係

TEL03-5421-8707

詳 細: <http://www.ism.ac.jp/>

行 事 案 内

第69回研究発表会(本部)

日 時：2002年5月25日(土)

9:30～17:30

懇親会 18:00～20:00

会 場：日本科学技術連盟・本部

プログラム：同封案内をご覧ください

チュートリアルセッション：

A：統計的因果推論と工程解析・
工程管理への応用(仮題)B：インフォメーション・アクセシビリティ
情報バリアフリーの実現に向けて
吉永 秀志氏(日本アイ・ピー・エム(株))

参加費：

(1)チュートリアルセッション・研究発表会
会 員 6000円(締切後6500円)
準会員 3000円
非会員 8000円(締切後8500円)
学生・一般 4000円(2)研究発表会(午後のみ)
会 員 4000円(締切後4500円)
準会員 2000円
非会員 6000円(締切後6500円)
学生・一般 3000円(3)懇親会
会 員・一般 4000円
学生 2000円
参加申込締切：5月16日(木)

第29回クオリティバブ(本部)

テーマ：デジタルデバイド是正に向か
う情報化社会とユニバーサル
デザインゲスト：門田 利彦氏
(日本事務機工業会/キヤノン(株))

日 時：2002年5月10日(金)

18:00～20:30

会 場：日本科学技術連盟

東高円寺ビル

会 費：会 員 3000円

非会員 4000円

準会員・学生一般 2000円

(含軽食)

詳細はホームページをご覧ください

URL/www.jsqc.org/ja/oshirase/gyouji.html

特別講演会

テーマ：知識資産の活用とナレッジ
ワーカー

日 時：2002年6月20日(木)

13:00～17:30

会 場：日本科学技術連盟

東高円寺ビル2階講堂

プログラム：

基調講演

TQMにおける知識資産の活用

大藤 正氏(玉川大学助教授)

特別講演

知識資産活用とナレッジワーカー
の育成

山崎 秀夫氏((株)野村総合研究所)

事例紹介①

知恵市場「メンター・ネット・ワ
ーク」橋本 聡氏((株)コンサルティ
ング・ファーム)

事例紹介②

Electronic Laboratory Notebookの
活用とナレッジワーカーの育成

原木 晋氏(三菱化学(株))

募集人数：100名

参加費：会 員 4000円(締切後4500円)

準会員 2000円

非会員 5000円(締切後5500円)

学生一般 2500円

開催案内は4月末に送付いたします

JSQC標準委員会主催

特別シンポジウム(本部)

テーマ：「ISO9000:2000審査研究会報告」

- 効果的な審査方法のガイドライン -

日 時：2002年6月21日(金)

10:00～17:00

会 場：早稲田大学 大隈小講堂

内 容：基調講演

研究会発表 事例4件

パネル討論

参加費：会 員 5000円(締切後5500円)

準会員 2500円

非会員 7000円(締切後7500円)

学 生(一般) 3500円

開催案内は4月末に送付いたします

第86回シンポジウム(中部)

テーマ：品質マネジメントシステムの
成功に学ぶ- ベストプラクティスを活かし、
管理システムの変革 -

日 時：2002年6月28日(金)

10:00～16:40

会 場：刈谷市産業技術振興センター

7階小ホール

プログラム：

基調講演

ベストプラクティス企業の成功に学ぶ

長田 洋氏(山梨大学)

事例講演① (株)東芝(依頼中)

事例講演②

アームス(EAMS)活動の事業所
展開

- 自社システムによる

全員参加の改善活動 -

横井 金雄氏(リコーエレメックス(株))

事例講演③

産学交流 地元産業の活性化と大学
研究水準の向上活動

犬塚 信博氏 江川 孝志氏

(名古屋工業大学)

参加費：会 員 5000円(締切後5500円)

準会員 2500円

非会員 7000円(締切後7500円)

学 生(一般) 3500円

開催案内は4月末に送付いたします

第87回シンポジウム(本部)予告

テーマ：日本のものづくり戦略

- 対中国戦略と空洞化への対応 -

日 時：2002年7月26日(金)

会 場：日本科学技術連盟

東高円寺ビル地下1階講堂

内 容：基調講演

特別講演

事例発表3件

パネル討論

開催案内は5月に送付いたします

行 事 申 込 先

本 部：166-0003 杉並区高円寺南1-2-1

(財)日本科学技術連盟内

(社)日本品質管理学会

TEL:03-5378-1506

FAX:03-5378-1507

E-mail:apply@jsqc.org

中部支部：460-0008 名古屋市中区栄2-6-1

(財)日本規格協会中部支部

(社)日本品質管理学会中部支部

TEL 052-221-8318

FAX 052-203-4806

E-mail:nagoya51@jsa.or.jp

日本学術会議経営工学研究連絡委員会
人工物設計・生産研究連絡委員会
経営管理工学専門委員会
日本品質管理学会共催第18回
FMES・研連シンポジウム

日 時：2002年5月17日(金)

13:30～18:00

会 場：青山学院大学 総研ビル12階

渋谷区渋谷4-4-25

テーマ：はじまったJABEE審査

～経営工学関連分野における取組～

申込先：(社)日本経営工学会 事務局

資料代：5000円(学生2000円)

内 容：特別講演5件

ディスカッション

案内は4月送付の品質(32-2)に掲載致し
ます